

果実袋被覆による甘柿「甘秋」の雲形状汚損軽減技術

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

甘柿「甘秋」は、販売単価が高いものの果皮表面が黒変する雲形状汚損の発生が多く、商品果率の低下の要因となっている。この汚損は、夏季の日焼け及び果皮表面の濡れが続くことで発生する。そこで、果実袋を果実に被覆することで、雲形状汚損の発生が軽減できることを明らかにした。

研究の成果

- ① 甘柿「甘秋」の雲形状汚損は、9月中旬頃から発生が多くなり、特に樹の外周部に多い傾向がある（図1、2）。
- ② 仕上げ摘果後の7月中旬頃から8月上旬頃の間には柿用白袋を果実に被覆することで、汚損の発生を軽減することができる（図3、4）。
- ③ 柿用白袋で被覆しても果皮色や糖度等の果実品質は無処理の場合と同等である（表1）。



図1 雲形状汚損の程度別発生状況(商品果の範囲は消費地市場より聞き取りを実施)

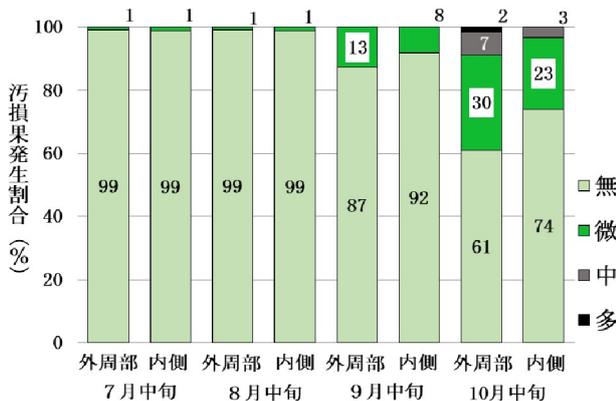


図2 無被覆における時期別の汚損果発生割合(令和2年)



図3 被覆の有無による雲形状汚損の程度別発生割合



図4 果実袋被覆の様子

表1 果実品質(令和1~2年の平均値)

区	1果重 (g)	果皮色 ²		果肉硬度 (kg)	糖度 (° Brix)
		果頂部	へた部		
7月中旬被覆	220	5.8	5.6	1.5	16.9
8月上旬被覆	222	5.5	5.6	1.6	16.7
無処理	213	5.6	5.7	1.5	16.9

²「農林水産省果樹試験場基準果実カラーチャート(カキ)」を使用